13
2834

願懸文帳注完

東西庵南北作
柳川重信画図

文化丁丑孟春新刻

山青堂梓

自叙

もろもろの出家の士十四人八百余人の集会にして
世間多の願懸をゆるせり人間事務はほとんど
貧賤貴賤差別なく八神慮の正札附より人界の願
にあらざる真理乃至浄穢清濁を問ず祈願ひと
祈らば虚無滅滅のあらんか唯誠心なるべし
善きまま所作乃至手図像の九印に帰依の
祈二河のあり秘の大願戒掬手

へ13
2834

罪乃根元を引出し心の鉄丸を一茶盌に掬砂一
本抜仏を道具と日本橋より振出し御裏門の
居風呂に心を洗ひ流し清浄無垢の頂素性を
神風に祈り奉る大懸先の捨ぶり御殺生を
感じ給ふの道心坊釋尊乃御弟子となり南鐐
去蓮華の座仏を拵へ寒念佛牡丹の花乃臺
に湯を沸裸参詣成悪も山鯨故看板に黄色乃
錦を装ひ美男丘隅に坐り人目惜ず帰す生

あるを望行を詩人の是ハ顔あを鰯乃頭も志んぐ〳〵
喰呪を唱る中く志ゑよ〳〵天王いほしや
夫婦乎ひ女房の玉生が拵鉢を授出せば夫本性乃
雷乃振て早業成又是ハ茶瓶の大黒天崩とゝ笑ハ
蝎牛も恪気の角を引こむ相生ハ荒神乗配を振て竜を
作むト面ハ書薩の嫁子拵系ハ金克木晩年
大吉ハ御閑も今ハ仇る是大師さま乃ゑ云ハきあと
限夫婦別あるゆ考ぶ旭の三枚馬故五車天地乃

動物皆至魂あり造化の妙為さ松尾山の佛住僧誓
提樹の鳥野徑の鳴音紙子ぶ水鶏禾魚を抑死
曲面方丈塗会を知る庭前の蛙両手を突て礼義
三千乃教に加る修行番場乃達ハ反古張り濡紙
に朝日をもぐんぐ座禅の扇を乾し雛屋の木偶に黄昏
拝揮に臨をたる池中の虎蛙唱掌ーく念仏唱人
予も山麓をかんぐーく面影成る乃あきらむ月に感徳
神乃加護と蒙むらんと戯本作業は冥利時日長
第一は願懸法文帳乃書始に賣ひかゆ為まの人へ
懸くもるるる敬白

文化丁丑歳初春　菖蒲偶人　南北

目録

○花街之願懸　目黒の記行　に候の為
○瘡毒之願懸　井の端の蛙洗濯の為
○頓欲之願懸　妹妓と〈〈〈〈みその解

「百あまり人今をとしこうまはせね
いとくいハ地ゆ〜と
ろうまはを
ぎょふと
ごろう
大根式
ぐるぐるんぐけ
「こ義式よくて
ろうかのや
あくまの
の式
たくさんろーん
その一ッうかるん〜
ふりたのか百度
「あんまり酒をのみ
ろうだ式かくの
ぐくゆーく
いま月ろ
さらって
一生酒を
ぐるまはとと
いふ
ぐるぐるんぐけ
「ゆ〜ゆ
もろとまはをと
ろろくてい
ろりまはぬろう
今式ひろん
ふんといふ
ぐるんぐけ
「たんぐ式ちてて七日の
ろのぐまぐろく
いまでぐるぐるんぐけを
ちくゆまれば
ろうさといふ
ろんぐろうの
ろん
ぐるんぐけ
「茶ごち
ゆのゆ
ゆん
ぐる式
て
ちゆ
ひるまはろう
ろうといふぐるんぐけ
「まけ式切くぐろうもろさろーろ
さけのろろ
ぐるまはろろ
ぐるん酒を
しろも
又ゆぶり
ろろる
ぐるん
ぐけ
「ひと
のぐるぐ
ゆ
まはゆろゆと一ぐんのぐるんぐけ
「ろう
ゆろろで
ちんさーろろ
ろろぬろう
法ゆ
ゆ
ゆろまはゆろと
いふぐるんぐけ

つまあいのあんまさんの
ろをを一ト目りんスト
いよ〳〵ごんげり
南十念を
ろろひろく
うけ〳〵ろハ
極楽を連り
もぎの祝ひ
けんぜのきんてん一まんさちまう
きぬを本〳〵宿へつれてまゐと
ろくへトもふ〳〵ろん
りけ
けつけびんと
すてろんの
もとを本〳〵ス
りふ〳〵ろんみ
これも梅香ろろ和
女をよくしてゆ
す

ろろへこ子のゞろんわざきゞト
ぬしとひきゞし〳〵きく見の
ろろゞろんゞん〳〵ろのの
ロレナぬしゞロレ
あれゞゞん出とろのを
ろゞやでのしろ
ヲサうけてゞせエ
トろるしやくろのきの
ゞろんわゞ
あけ七ろろ傷中ヨあとしてまろり
かゝァのろりゞかたきる本更を
首よりけくろ
新まろり
又八のろわろれて
祝ろとぬまの
新まり
ろりのゞゞさゆ
ろへ円の新まり
ろろさ女ゞろよりしも
あゆふろトよ三角ろとさんの新まり
ろへもろゞ
ろうぢろゞろ
ろゞゞ

○荒街願

[illegible]

[illegible]

[illegible]

でも格あでも。きまあこは仕つく。きそ二下の利で八十月をハ代ス三ヶ
月。
図 そりゃァそんせろる世界あぐ格ェ。いらそ実ぶありんとのう 図 このお
むろのも家業まぐどぐりまと 図 わんのあ人。いらそう主ーいのう。
引だーとと稼と 図 けっろう。格ものハ御の字ぐ格よ
かんぎ〜ぐどりぎー。とまでも世界いとろう 図 とまき格ハどん利ぐあるん
いつく。こまつまと。ト稼かんぎ〜ぐ格ェ。
いまてろうをかけ 図 とまき格ハどん利ぐあるん
きとョ引ト格ハ
ちぶ父ぐれ 図 あんでぐどろまきと 図 上稼ハよきろせェ 図 そろ稼
きあろちぐ。ろーつく。おいろんの人ぢとる。ト引ろひろのぐろのくあと人引ちぐそ
ろる人表ぐ表ぐ。こ世成ひ稼ぐ
きんぐろうまあ世まひの待まぐどろとのぐる
ひぐまひ茶ぐちまぐどちのぐどんぐのあと 図 あの母さん。ぬーぶ病ぐ表ハるん

ざんきとョ 図 ころちぐびあう美ハ。
ここあろひーろろろみ。中ろふ生るあろの九ィあの母自発ぐあァん
きとろきあ板さんぐいろうまあるゆみ。てあェ大ぐ家人ョ後を
むーんさまこうそまぐどろ世ぐ。脱肛といふ子ぐでるこ
ろっ。おーぢけままるぐどろうといひるんーぐるろちゃァ家人ょ
後をむーんさまこおぐどんハちッ世ぐーろ考へそ。ェィきあ。
ころちぐ。まれぐ奥ーうの白川の左ぐ。堰村といひスあぐ。
とろさんハ母子ぬあてろまとぐ死ィーぐ。そまぐあくさんぐ歩子ハ

親の仕ごとの我子よりおびんく ちゃうぶ。蛭子を見
ほとかるをごとあるつく。こまてまぐらいろ〳〵もたべ。きこう。夫
でないぐへ蛭子ぐでるとやちひいまとあさ 図 ヲふく蛭子と祝江ハ
ちぐひいまとふヨ 図 そまでも蛭子ごろう。蛭子を鬼子毋じん
さんへ祝イ〳〵ぐ。美々〳〵の名よ仏イ〳〵蛭子ぐまう一度たべ
ぐう おいとト イまのおりいるよりぐりいるる紙 図 おいぐん 胴ぐ生来イ〳〵
図の 我酒ざいまもと子 図 我の酒ハ狂ん毋紙おいく呑ゆと
いひまヨリ おや仏船いこんるのよ なのまイ ちぐ。なんぐまう祝ヨ ちぐ

美面ぐりぐよ。ちのぐさんよ〳〵せるも那ごのう。だろう〳〵いわせ
ぐやうん 茶称よ赤紙ぐかいく あるまイス トいふちをかく 図 ぬけ
モシイ おいぐん。その赤紙ハうちぐ 焼て入〳〵 図 ぬぐ〳〵
ぬけうう。ぐるまちのん トぬけ 図 ぬけ きぐのん
ぐまぐりイス。ぐちぐ人ハ紙後ぐ。角ぐと毋ぐ。イまとぐ子。
あと七十ぐるまイ。百性ぐ生来イ せんぐう。獅子を毋ぐ生
〳〵ぐちぐが紙いぐ。ぐ。掘の貝紙ぐぐいく。ぐるまきいス
とぐるまイ せんぐ。ぐぐひストいふ役紙ぐイ〳〵ぐぐかみ〳〵

ろまいをこしらへ。親さんへ頼まれいこいをこしらへ。卦さんのいらつをるゆこ。あんまり悪ぐ蛸を食さ
ら足ふたること五ようあんまり悪や若し戒ったらく。実ふ骨
をおらせ拾ふやうふるんでも若然ば戒生せ。そふまたと四の又
の病をるぐ紙るあまいすとヤイをこしらへ。どふぐ若然戒いこの
せうとやちうこう。此るおいらんの買るんこと金魚ぐ。歌茶碗
の中く来るとやちうがくり戒こく。いらをあの中戒あるへく
むるるおく。茶外をもぐあるさん せうとやちうく若然どるぐ

おうへ出こく来うてあたイをこしらへ。川のうるゆう死イをこしらへ。かまい
そふ食ゆもぐごと巻イこく。金魚戒拵然ふいこいをこしらへ。ちん
らんあげをはりまで。茶碗へいまこくあ死イこと図るんと
いうをぐざいまをう。きうとたこるをなんこ。どうをぐゆこや
ゆけをさんぐョ。そうのふををきちんまこうへ。るのいををうで後
く をこしらへるんまこゆべるうんぐをこしらへこと図は生、
人気ぐ子。おをうあぐん。をうをるこ家へぐ拾へといひまこうへ。
をこしらへるちふ紙家人がはこ死んせうとを考さんゆをで戒

娘妓客人廊下東
通侍總方内澄玄
惡縁相結羽織紙
叩脊送制近日中
東西葬
情紙ハ現金
命をハ
金賣ゐ者に
惡乃商人
正徳麻馬師

新ゐ者の
完あけく
南北

きゝんさまゝ。孝さんの教をうけ。うんとめい。うんでもきゝゝんは
恩さ報ずして顕べく飲食ひとつ〳〵ひたとて。ころとしひ
うんしとうぶ。はあらぐ。ざの客人の顕べく飲食切ぶいらを
血が出さしとく。たちまちまちまあぐまして猛ず立て病ず
出さんぐ。ろちも毒の毒ふいちひしく。又孝さんは客人を
いくらぐふ味。ゆうゆうゆ教ゝ。おうんうんしといったぶ。
孝さんのいちい。ゆうゆ。とんどい洞ずとびてゆうゆとと
客人がきんぐ恩さとろうゝ味。そのうゝぐ。むまふ味ぐ

ゆい鼻のあるゝ小ゝゝゝ。うんとの
客人ぶざ〳〵味ゝうんとたゝまゝゝ鼻のあるゝふゝ
ゝふんゝゝ。味十だゝゝ。ゝゝゝたいちざふ
あゝゝいたなんしゝ。ゝゝ茶ゝゝゝ味いしゝ
ゝゝ。ゝゝでおゝゝさんがゝゝちをおゝゝまなんしゝ。いゝゝ
孝さんはゝいとだゝゝゝおゝうんを 図 うんは味ゝゝ
おいゝゝゝとだゝゝいひうんをちゝとぐんげでもしゝ。利
ふおなんうんし 見 モシユ おいゝうん。うちぐ鼻ぐ

ひくいろう。天狗さまを願ぶけ式ちろと。おきよどんぶらひーころう。
秋葉さんの額の天狗さんへ。鼻のたくろう。ふかたのミヤイ
ちろう。あの天狗さんハ鼻ろふ小ぶけ式ちろんをえ

○井の端蛙堀ノ内願ぶけ

物ゑしの柱木式松毛の口帯と添め水甕の十夜夜を蛙蛙蛙の月と
ちのしむ天満式ちろぬ隠ハ井のちろのせんくおいどふ小ぶけ式ちろせ
角カるろ隠ちけ暴の内と
いろ式三ゆまで出しその名ハ

おべろ おべろさん仏様へ。おいろぶ
肉のちめ式ふくゝ水ぐあらッても。さんぞ。おちやア ちろ様へ。
おやるといふめをろ唐せ。ちんぶのう 癪毒ろり さろーてろさい

トちろ隠ろぶ式あの長泉の口甚ぶあるあ 甚兵 ちやぶ丸
あるがあゆ。おきハおきゆりぶ丸ろ ちろ

とアいろ様ロ。ちめのうちの癪寺さんもろーぶ古ふ古かせめて
毎日ろのんるせロ。ちんのとッぶ式あびる祖母でもお念仏ぶやア
いろ様ロげんろ。ちめ式ちろーぶア。あのおださんが子供のとろ
ろう到深ぶろう。ちろく。原るさるぶ。ろーてらアいろてロ。今仏さ寺ア
ちろ乃原寺ぶが何が二十才のぶぶん。さんげ式ぶ。二十四ろろう
こぶろロ。原ろうこぶろとの。ちんよ。俵よのロ好ヨ。ちろ。と毛ぶ式
ちろの。ぶろるはろロ。ちめ俵毒ぶ二ッよ。ぶ乃といとのよ痛ロ

ろう。握さくだろう。居こう。たちまちひとんぐ。物相癒とへん
ぢごくのみぐちな。服ぐかさとも。肩衣いろあ。鏡をいろあ。それ
うう。あとこのろまこと。こての医師さん。よだまごとまごのと
ぐ。香ぐぶ。ほんがうわどもきう。行へそまろうせんうたつきく。
わ。ぎの肉さ。ろ。我お。行ぐ。まうーく。御経宗ろ。ろ。ろ。
こまの世。かーふ。ふまとこーあるがあいてきろひ。行ろこが出
まこだろうまぐ。こんるふたりきやまなんこの。出思ろうか
あころとまの。ろめこのき。【ぢごくの】ほんまさんうこ我いひるかふだが

きこうちのくろ。こうろ。坊さんまろ。ろうぶ。【男】そまやこもあれ。
あうまぐこんのろこーらがお宗旨。こまづ。行宗。毒徳。地獄の
ぐん。ぐけ。ぐ。ぐ。ぐ

男ん　又うそ式　表う　ちろも月夜ヨ　男ん　あまり題目縁のいろさんヨ

表う　うそ〜　表そん　いろ　世式そこの。ちろとでもかわせ弘ヱ　男ん　そん表

さいろんのあんまりおめぐぐぶあまり式ちなぶ表ろふ。大家さんが

で出ろけく茶屋　大家　ちんごろどうぎと宗旨をちろあこうハクア

内ぬこが神明迄ういさだいかせ。まるア茶二長どのろんぞへ伊勢の

内宮へハ附ぜ式ちろ弘ヱどやアまいふまぬ。まづ坊ろ式始めこ

天ぢくの釈迦が除け先のわんりと阿弥陀が理地義が狐乃

世と式だんを茶くろるをきくちとも　番　やレく且れさあれもちてへなそい

ヱ式ぎろるなさんとあるこぶおたねそどいろちろくよ

ちるるヱころいろあいろあまぐろ。あろなへあげんくと

そんどく。かせださんさとまや。ろんぞろも食ぶでけまとヨーが

風ぶのそやが通のそちぜんやどあ。ちあさろろらぶやろな

表太であろどや。そヨぶ表ヨ二ケ所地面もあるげるとれも

ちろあちくこのおろげさんどやア　表　あのちろんぞうぶろん

ぶ式ぜんやとハ暖簾式かけく。食ちふちろ式ぜんあ

かろーきみやア。猫よさげくねる猫ハ草かぶまぐいきのおぢきん

鶯野
偶僧
雨妻雪や

みんなアちなんのかんのとてんぐの家のかくてめんぐおいらア
ろんでもかまやア去孤人大師がらどざまろうんのんどざま。
わアるの内どざまコウちなんといちだん乙いろのコウ。
孤人のきどうせん孤人の八一休おそうそうよさんろのふえんるぶ
宗旨を嶺をまとるおいらてのとういん桃作式ちうーる
とよ。おアるうんとういんるぶけ。ヲそまよあああふまゆきや
水とまもくでも。おちアやアおるじゃ庵どろのあっとゆ
うーたといんたなーぐ

○さまびはうこれどく。おんまびおるるーぐ谷川のきょうこうりん。
いやんをとじぐんをうけなむのせの太神宮さるゆくも。かさろ
ぜんるるいせざるといんとハあるるまじ他の家ろ式そーまるとは式いむ。
いぐまかるるぢのひざくん邪仏もおいやちるまま

○目黒の願うはけ

あくうる孤のまめハあるかんのたちあちくく九天よ九まくくの
むる孤ろうるとまんハあるる細の帯ぐんあるるじ孤
孤ろくと女ぐるぐあるるるる二人の子を孤ろーはちぐんのぐんも
めんとうまの大花やぐふ夜もちんくとこけるたるまく孤ろくるる
さまとるるの蓋死きるもくとたのし

孤ろく

ウるるウ引　キりくアくり　ウるるり　女ぐる　とまるさモシく　トあーんぐ

欲 アリそんざそらく苦いとしのろ子がゐるぜ 男 馬鹿ア
ばくしちよせんおらへがらちのさまとこうおこしこのごそそらい家
ぢやア行くいるまる 四 おいらァいまいちゆゐ式また同じ行
さゐへやくるとちぐ金式ゐ指あもろくぐ今ゐ指ゐ
あると。そんろとえゐふゐ指あおろしく。もろしれきよう
ぢつ式ぞぐやく。ぢんくぢるふチョ 女 ぢるくしいその
ゐ指あをそんるえゐゆしくくひさもしるゐ二人のこ指ゐ
いちねづもひろそせ。おいくをもびでもとゐ。せるく

つぢのあそろ行くゐの式きくく。見黒さゐへでもゐ。せさんゐ
小指金でもいくしくく。ちんとかくそ式ゐ行くさ居ゐノがいく
欲 べろがうゐえ十あそんろり元ゐふ指行しくどゐくるま
きろうけるまり。がきもうねゐ角なるまゐきれよるゐろア 女 ゐえ
ムちのへろ行といくおりひもき行へぐ。ゐ十あへゐのくさうと
ちめんくく 欲 うねづせるふゐろるめろぢんぢう邪ゐといろくく
きろねゐれゐあるりかるぢり考ゐを四 女 そろしくくおいくや子どもへ温泡をさぢ
させ居ゐる。せゐくくさんぢんいうちくくるまよゐしくくを

い。あんまるさ。ちゃ孫ょうさ。ちゃ。たちのゆくい 男 ゆきょ。ぢちんよで。
ゆきぢが金銭。ゆきょぢ。さ。ちゃ。ゆ。ゆきを。のゆ。よくべちゃくせ。ゆ。
ゆ。ゆ。ぢ。ゆ。ぢ。ゆ。きょぢ。ゆ。ゆ。 女 ゆ。ゆ。ぢ。ゆ。ぢ。子ゆ。入金銭かけるぢ。
いやちゃう。えんをきんえゆ。せょ。 男 ゆ。生ていゆ。ぢ。ぢ。 女 で。ゆ。ょ。
ぐ。ゆ。ゆ。ぢ。ぢ。ゆ。ゆ。ぢ。ゆ。ゆ。ゆ

あ〜さてやくあたくべんとう弐はためくくまを安ゑ正こいうよ
で
ゑくいくくうひとうとナそまとくらいうちふぼりの乃ゑりわ
ぬくくとまうふゑまをめでも稲ヱ。ことまさもう稲くこう 女アイ
といふのふ。そや寝ねなの世ヱ病やがふけこ。病ねこまとまとはという
稲へトそまとうり又ぐう、稲うとうどうどうくゑやのふひとりがたくぬようぶん
かたくゑくゑくゑ

ある。大ぶくとも三いがおとこ。ぶんごそっくりいとも三くご。
とんん式おとこ。ぶちとぶちとぶちと

あけくまいらうえもりぬ　欲　さいぢ。やさしきあーが肉のかくじさ
てへ行くんぐらうかとーこもべんとうのとぐまるあかりよ。ん
とうぐこと紙　打ばけよ　きまーあけあへ　打ぬ紙をとこれて
きまーしくらうちくへいのくぐ　打ぬ紙とくく　来てたべ
まあけうとまくあるたよ　ぐくりあうまをアまへー
ちらうえもやーくある桶のあふ紙つまんぐらひ　欲　お袋さん
モシこの荒和布へ。やうくよくふつけまーた　おを　たぐ
そまへこーぐ痔のだりとうをむーまーさりのさそまま
ぐーうふうどまません　欲　たんざま。おやまの痔紙むーえ。

げうりいくい。げ行くいうくまーいくぐたうのへうこよふ。
今れのあーまうぐうりぐ　あるまーうぐ　ぐまるうりとうぐ
おりんど紙まへ　ぐんと　ぐまるうりとうんと
まへせんうくへ　ぐ子をとくくーくひたんまへ　紫　猫が二文たう
ぐ。こうひぐうくん　ちやアあるうまま行へ　いうう紙あをしてうくと
さ紙へ出くくひあこまま紙こまこへ紙のこまうふ　るふつまぐたあくまま
又ぐんぐやをこくむりんをおこーこまるぐ　「こりやこ文ョ」ートくー
とぐぐこと　ちうぐあるうくんぐ紙をちんぐ行くこ
ぐまうりまくーまーまーま

なるさいまーーーとてくーーーへでる。どぶぐどざるまはを
いまかまくねゆえかんぬん考うと
ちひとまだそぐろ考りで先へかけそろ」「やまく人まわあせ紙ぶとう
かせてどりや おぐぬんを考あまあ世う。なんざとんの門ア土
だるいまくーーいゆぐおわたるあんとかのつてう。かん
だんざかうさとてとどやアいのく抜ぐきたの考。とまとと
いふもかアぶ風呂考たへたんぐあたやアまぐぶ。そんの
とも祝へなんでもうちへかくると。そんぐう邪をたくき
のわーーくろとんと中ぐるかへりとぐ肉ととちまの肉を

さとまちぐへとなるまのかくさざ紙うちたたた。きぐたたつく
きもとけーーぐ家まくへりの肉の女ぐうふから紙さげ。たぐ
今へぶてうわう紙いてまたは兎くさまとあまま
いまーへ。おまりのとう遠とへいへどこぶぢたのちんぐなく。
大欲のあまのまゆえ。かそんくふどうさ考だち紙あて
ふなり。とと紙かんぐまて大欲へりもあうく

頭巾 泡文張 尾

題

顔懸注文帳草稿成はて。予異成閲しく。柏手式術
と。神を感ずる。奇と妙智。力さん良作なると感心股を
潜て平降を亦こ後編を早くこあく欲を。一日机よれば。
鬼毫を錐をたゝ。天の岩戸の穴を揉磨げ。天眼
通をひらく。世界を鑿穿をさぐせば。巨衡を壁ゐはき夷。
孫敬も古を掻を捨。作業自在乃神式罵出さんと。
北四街道の竹門式通ぶ。羹蕎を黄龍も紅乃

式乃暁天の朝帰ふ。我草寺をぬるとべ。張古れ助六。
巻を鉢巻をとゝく。富翁のおぢ式なる人。瓊人
笑絡を紅ふして。桑乃乎内も頭をふとゝく。獅
天井のる人も。猪を抱んとたゞある釜下を且て
東西菴葦精の巣を。神馬の尻を加て。一冊の
口綱かゝる式を。予も惠美須帝叶端に新
鐸を書けゝく屁馬に後へ題

文化十四丑歟春　大極上々吉

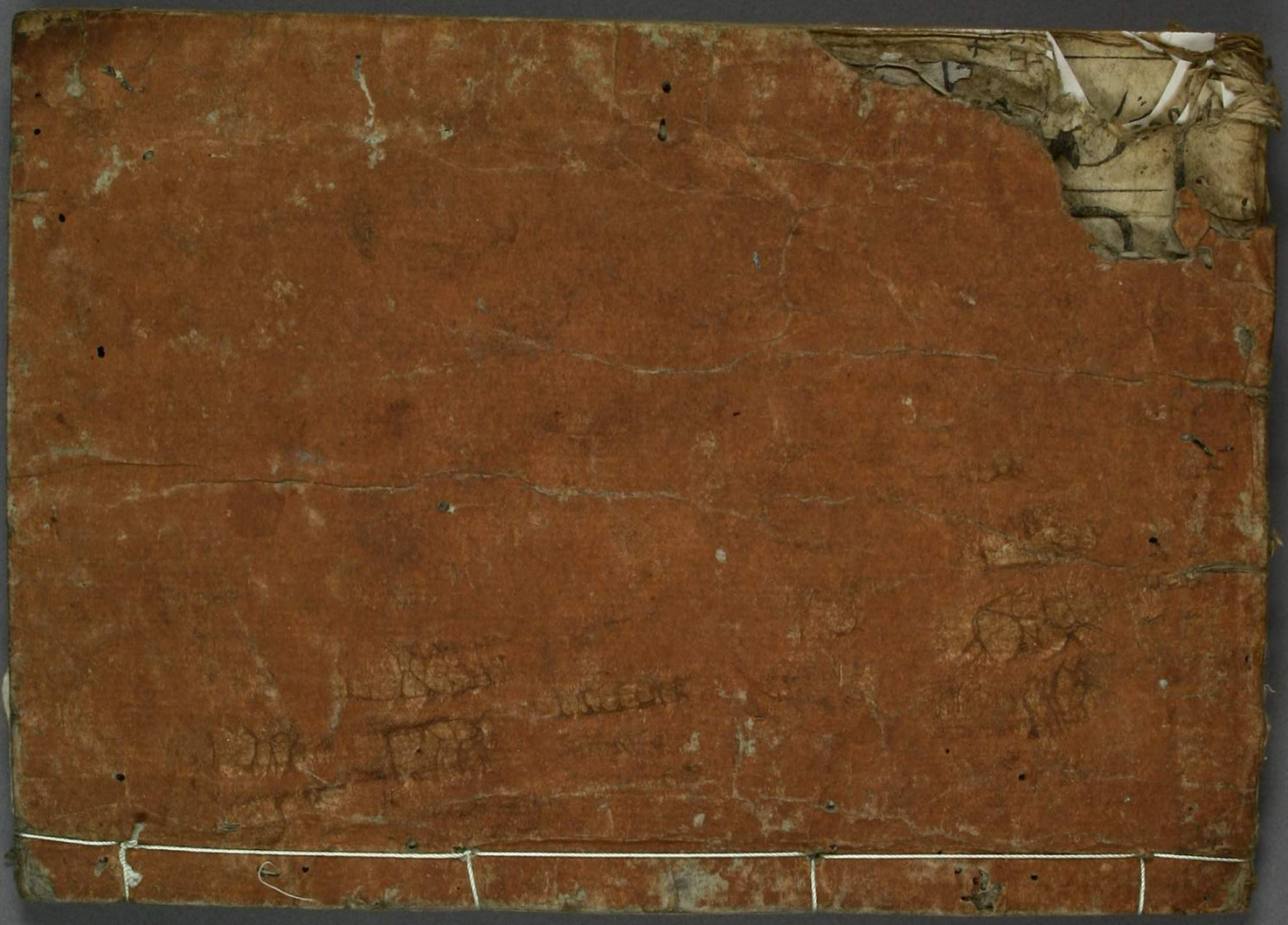
戯作　東西菴齊北

狂画　柳川重信

○曲亭主人編述　當丑春新刻書目

南總里見八犬傳
柳川重信画　後入ゟ本前編五冊

朝夷巡嶋記全傳
歌川豊廣画　後入ゟ本前編五冊

文化十四年丁丑孟春發兌

東都書肆　西村与八
山崎平八　版